

シリーズ・アーカイブマキキ資料保存室より(#1)

あなたは考えたことはありますか？

何が私たちのマキキ教会設立者の奥村多喜衛を掻き立て、1894年にハワイに来て以来57年間も、ハワイの日本人に宣教し続けたのか？何が彼を動かし続けたのかと。

奥村牧師自身の声でこう語っています。

彼の著書『恩寵70年』より



Rev. Takie Okumura, 1895

1. P.103,104

(奥村多喜衛が洗礼を受ける前の20年間)

1887年、政府に報道の自由、言動の自由、許可の嘆願する自由主義集会在東京で開催された時、私も東京に出向いた。片岡健吉や穩健派のリーダー達は、芝の金虎館に集まった。毎朝毎晩、私は助言の為に片岡に会い、自由党の大義の為に働いた。

ある日、片岡は私に「あなたは私の親族のひとりだ。しかし私は同じ神を信じていない者に、まだ我々の国の重要な問題を全くの自信をもって心底話すことはまだ出来ない。あなたは毎週日曜日に教会に行き、キリスト教について学ぶべきだ。」と言った。

彼の言葉は私に刺さった。キリスト教反対の私には、奇妙な感覚であり、苦悶を感じていた。しかし恥と痛みの中、私は次の日曜日から一番町教会に行った。敬虔に私は祈りに頭を下げ、牧師の全ての言葉にありのまま熱心に聞き入った。不思議にもその時から私は熱意を感じるようになり始め、教会を切望するようになった。それはまさに私をいつも尊重し、人生の新しいページを開くようにさせてくださった片岡氏の言葉であった。

2. P.12,13 (受洗後、奥村多喜衛20代前半)

私が同志社大学の神学生だった時、コロンビア大学、英国ケンブリッジを卒業してすぐにあらゆる栄光や地位を捨てインドに行き、神の国の為に仕え、とても若くして亡くなった若き青年『ヘンリーマーティンの人生』を読んだ。私はこの若者の献身、勇敢さや自己犠牲の奉仕に心を惹きつけられ、外国の地で伝道をする事を決心させられた。

ちょうど私が働くに相応しい場所を探していた時に、その当時又ウア又教会の牧師であった岡部次郎牧師が1892年休暇で同志社を訪問し、ハワイでの状況や雇用機会、変化している様子をありありと描写され、ボランティアを募っていた。私は卒業したらすぐハワイに発つことを決め、デービス先生にハワイ伝道会社に必要な手続きをしてもらおうように頼んだ。京都に自分の家族を残し、私は1894年7月14日についにベルジック号にて横浜を発った。

その後、私達を激しい嵐が襲った。船の船尾に建てられた小さな三等室の板壁が荒れる波で粉々に砕かれ、私達は海に放り投げだされた。幸い、私達を助けに急いだ水兵達が来て、ひとりひとり貨物部屋に移してくれた。5日間、嵐は静まることなく私達を激しく打ち続け、私達は貨物部屋で身を寄せ合い続けなくてはならなかった。奇跡的に嵐が静まった後、その全ての恵みの中で日が照らし始めた。

3. P.4

一度ハワイに腰を据えると決めると（ハワイに家族全員を連れて来た後）その場しのぎのことはしないようにした。私は10年、20年先を考えて構想を練った。

4. P.20

1902年、ハワイの内外人の援助のもと、ホノルルの東側で伝道し始めた。戸外でのミーティングや呼びかけによって徐々に、10人程の熱心な観衆のグループを集めることが出来、キナウ通りにある日本人キャンプの角に小さな小屋を開けた。1904年4月8日、たった24人のマキキ教会が結成された。

5. P.7,8,9

これらの数年間、私にとって良かったもうひとつのことは、私に注がれた冷笑、あざけられたり、悪意のある名を受けたことだ。たぶん、最初の日本の仲間がハワイに来てからは、誰も私のようにすごく誤解されたり、攻撃されたり、誤った伝えられ方をしなかつただろう。過ぎた40年間、私の考や行動、私の目的や計画は多くの人達に反対されてきた。そして私は道を行く人達から悪態をつかれ、新聞でもひどく批判された。

私に対する誤解を解いたり、説明することに決してあきらめないし、パウロが言っている言葉と全く同じように「私にとっては、あなたがたによる判定、あるいは、およそ人間による判定を受けることは、非常に小さなことです。事実、私は自分で自分をさばくことさえしません。私にはやましいことは少しもありませんが、だからといって、それで無罪とされるのではありません。

私をさばく方は主です。ですから、あなたがたは、主が来られるまでは、何についても、先走ったさばきをしてはいけません。主は、やみの中に隠れた事も明るみに出し、心の中のはかりごととも明らかにされます。その時、神から各人に対する称賛が届くのです。」



人々はいつでも不平等や故意に批判されたり、悪口を言われるのに憤慨する。しかし私はいつもそれを動機や成長の肥やしにしようとする。

6. P.53,54（後に又ウア又YMCA となったハワイで初めての日本人YMCA の創設者のひとりとなる）新たな建物を設備が備えられて、私達の組織は国際的施設に飛躍した。ただのアメリカ人と日本人の親善の為ではなく、実践的な宣教の場になり、気楽に日本人、中国人、韓国人、フィリピン人が交流するようになった。「主にあってひとつ」の理想的実践を例示出来た。

7. P.105

毎年、リンカーンの人生についての本を2、3冊読む習慣が出来た。この激動の40年の間、私は彼の本を43冊読んだ。読めば読むほど、私は彼の偉大さに惹かれるようになった。

20歳でキリスト教について聞いた時、私は武士道を洗練したものが世界的宗教だと感じた。その想いが私の中で大きくなり、最終的には私の人生すべてを変え、イエスに仕える道へ導いていった。同じように、私はリンカーンの行動や魂をさらに深く理解するようになり、彼の働きに真の「洗礼された武士道」を見、彼の熱狂的な賞賛者になった。

8. P.85

ハワイで成し遂げた全ての計画は、それぞれが細心の注意と考えを払い、成功を見だし、日本人や新しいアメリカ議会間の教育推進、教会活動において今後良い実を結ぶ完全な自信がある。

9. P.1,2 (70 歳に書かれた)

私は全てのことを全能の神に感謝する。主が私をこの地に送ってくださったことも、希望を与えてくださったことも、多くの困難に向き合えたことも。

そして社会にも感謝している。非才不徳に寛容に、私を迎え入れてくれた。

私は神や社会からのこれらの恵みに対して、自分の奉仕によって充分にお返ししていないことを悔むが、これらの奉仕が神や私の仲間に実に用いられるように、私の残りの人生を費やすことを許されるように願っている。

10. P.108,109

私はたびたび少年時代を思い出し、神が全く役立たずの私の魂を慈悲深く導いてくださったことに感謝している。23 か24 歳までは、産業、商売、官僚や政界に全ての社会に頭を突っ込んで、全てに失敗してきた。しかし今もなお、神は私の中で働いておられ、、、だから私は聖書の中でこのみ言葉を好んでいる。

「あなたがたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。それはあなたがたが行って実を結び、そのあなたがたの実が残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものは何でも、父があなたがたにお与えになるためです。」 (ヨハネの福音書15：16)

『恩寵70年』の日本語版を始めマキキ教会の歴史資料の閲覧ができます。教会オフィスまでお知らせください。

注：ページ数は『恩寵70年』の英語版 ”Seventy Years of Diving Blessings” のページ数を記載本文は’From the Archives…’ 2017年2月5日号の日本語版です。